

教育講演 1 講演概要

演題名	歯科は 在宅医療にどこまで関われるのか？ 関わるのか！ ～生きるための食支援は、どこまでの可能性を持っているのか？～
-----	---

概要

高齢化が急速に進み、多病・多死時代になった現在、在宅医療・在宅ケアの充実が急がれています。誤嚥性肺炎で入退院を繰り返す在宅療養高齢者もいっこうに減少しないという状況もあります。療養生活者の QOL には、楽しい食事と豊かなコミュニケーションは最重要です。安心・安全な在宅療養を送るためにも、口腔ケアそして栄養管理や摂食・嚥下リハビリテーションは欠かせません。口腔の専門集団である歯科界はそれに対応出来ているのか？

訪問歯科診療は歯科治療の提供だけではなく、生活支援や QOL の向上という視点から、利用者だけでなくそこに関わる保健・医療・福祉などの専門職種から、口腔ケアの普及、推進や食の支援に対する強い期待が寄せられています。

医科の主治医による訪問診療を補完している「訪問看護ステーション」が存在しているように、歯科でも、歯科衛生士による「訪問口腔ケアステーション」が必要なのではないでしょうか。訪問歯科診療とは、まさに「口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション」そのものなのです。生きるための食支援をするものとして、多職種、特に栄養士とコラボして 食支援即ち食べる機能の改善、低栄養対策に関わっていききたい。

今までに出来ている事の実例を示しながら、これからの課題も探っていききたい。